

平成30年度 かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会
2019年2月1日 厚生労働省講堂

平成30年度 多職種連携による 在宅における 薬学的管理推進モデル事業

岩手県・岩手県薬剤師会

面積：15,275.01km²

(平成29年10月1日現在)



埼玉県
千葉県
東京都
神奈川県

岩手県は本州の北東部に位置し、
東西約122キロメートル、
南北約189キロメートルと
南北に長い楕円の形をしています。
その広さは北海道に次ぐ面積であり、
日本面積の4%を占めています。

面積：13,565.49km²

(埼玉、千葉、東京、神奈川の面積をあわせたものより広い！)

2

【訪問した患者】 同行訪問アンケート

(6) あなたが薬剤師に求めることは、どんなことでしょうか

- ・ 薬についての質問や健康面の相談。
話を聞いてもらえると安心できる。
- ・ 薬のことで、わからないことについて
教えて欲しい。
- ・ 減薬に協力してほしい。

【同行した他職種】 同行訪問アンケート

(5) あなたが薬剤師に求めることはどんなことでしょうか

- ・ 個々に生活背景が異なるように、高齢者も生活に対する支障がそれぞれ違いがある。利用者の情報は、ケアマネからだけでなく、薬剤師自身でも観察することも大切だと思った。
その上で情報共有できればと感じた。
- ・ 利用者宅を訪問して、普段の管理の状況を確認し、薬剤師の視点で利用者や家族、支援者にアドバイスいただけたら、より身近で相談しやすいと思った。
- ・ 薬の量が多くて飲むのが大変と話す利用者の方が多い。医師は必要なので薬を処方していると思うが、利用者側の気持ちとしては減らしたいと感じている。そのような場合に薬剤師が関わることで医師との連携で薬の調整ができると良いと思う。
- ・ 医師との連携、服薬困難な方へのサポート。

【訪問した薬剤師】同行訪問アンケート

(6) 今後、薬剤師が訪問してくすりの管理を行っていくためには何か必要だと思いますか？

- ・多職種との情報共有 ⇒ ただし、情報の質が重要！
- ・多職種との連携 ⇒ 日頃から、合同研修会を企画・参加することで、他職種を業務を知るとともに顔の見える関係を作っておく。
- ・最適な薬物治療の提案 ⇒ 最新の情報を収集・習得。
- ・固定観念にとらわれない柔軟な考え、行動を起こすための勇気。
- ・訪問する必要性を薬剤師自身が認識すること、訪問に対するハードルを薬剤師自身がコントロールする（ハードルを下げる）こと。
- ・（訪問に充てる）時間及びマンパワー
- ・薬剤師会や薬局からのPR。
- ・他職種⇔薬局⇔医療機関の連携を円滑・簡便に行えるようにするツール。

平成28年度 多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業
釜石地区第4回事業検討会 報告書抜粋

釜石・大槌地区の 多職種連携に向けた今後の課題及び提案

○お薬手帳にケアマネ情報を載せる。

薬剤師は患者の生活の様子や服薬状況（残薬など）を知ることが困難である。大槌町では書式を作ってお薬手帳にケアマネ情報を載せ始めたところである。釜石広域介護支援専門員連絡協議会の総意を得て、釜石・大槌地区の三次連携で紹介してもらうこととした。

○アセスメントシートの紹介（在宅訪問可能薬局リストも併せて）

薬に関することで困っている患者さんがいたら、積極的にアセスメントシート（電話でも良い）を使ってもらおうこととした。

○病院薬剤師と薬局薬剤師の連携

病院薬剤師と薬局薬剤師は別の職種ととらえて、チームかまいしの連携手法に載せることとした（具体的には、チームかまいし病院薬剤師の1次連携）。

24